

---

# キミに続く

深山 奏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キミに続く

### 【コード】

N9389X

### 【作者名】

深山 奏

### 【あらすじ】

現代 / 幼馴染 / 高校生 / 切ない / 全年齢OK / ほのぼの / BL ぎみ /

ある日、幼馴染から「自分は養子」だと打ち明けられ、二人で生みの親の家を訪ねる話です。

HPにてUPしています。

## キミに続く #05

雪博が電車に乗りこんで、電車が動き出す。僕は思わず、その電車を追いかけていた。

ホームの端っこに設置してある錆びた金網にぶつかって、僕の旅は終わる。

僕の体を受け止めた金網が文句を言うみたいに僕の体をホームに押し戻す。

僕は錆びの浮いた金網を握りしめて、小さくなっていく電車を見つめた。車両はどんどんどんどん小さくなって、すぐに見えなくなる。

「……っ！」

金網を揺ると、棘が手に引つかかった。

「……痛てえ」

僕は掌を見つめる。中指の下に細く赤い筋が入っている。

「痛えんだよ……」

視界が滲んで、ホームのコンクリートに染みを作っていく。

別の道を選択するってことは、共通の話題がなくなって、同じ話題で盛り上がれなくなって、感性や価値観みたいなものもズレてくるってことだと思う。小さい頃は仲がよかったのに、今は連絡も取らない、みたいな。

そういうのを淋しいと思うのは今、だけなのかな。でも、それって辛いし淋しい。

ポケットで携帯が震える。

僕は涙を拭ってメールを開く。

雪博からだ。

『家帰ってオレの制服に顔埋めて泣くなよ、バーカ』

「……誰がそんなこと……っ」

僕は顔を上げ、どこまでも続く線路を睨みつける。この線路は雪

博に続く道しるべなんだ。今はそう感じる。

共通のものがなくなっても、僕は僕で雪博は雪博なんだ。距離は遠くても、きつとどこかで繋がっていられる。さっきのメールみたいに。

僕は叫ぶ。

「馬鹿野郎ー！ 絶対遊びに行つてやるからな！ 覚悟しとけよ、バーカーー！！」

涙を拭くと手がめちゃくちゃ錆臭かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9389x/>

---

キミに続く

2011年10月26日05時12分発行